

■児童・生徒の学力の状況

○「基礎タイム」（朝のモジュール学習）の積み重ねにより、漢字の読み書きや言語の使い方についての能力が向上しているが、定着に課題が見られる。  
 ○令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から、全体の平均正答率が全国・東京都と比較すると、国語科・算数科・理科ともに下回っている。  
 ○各教科等において、自らめあてを設定し、見通しをもって学習したり、課題に対して粘り強く学んだりすることが苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童一人一人の考えを『対話』や『関わり合い』を通して、相互を高め合いながら、深い学びにつなげることができるよう、指導を工夫する必要がある。  
 ○学習規律を「上二小での生活や学習の基本とするルール」に基づき、全学級統一して指導していく必要がある。  
 ○児童のまとめや振り返りを、『次時や次単元の学び』につなげる指導の徹底を行い、探究的な学びを実現する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を図るために、「上二小での生活や学習の基本とするルール」、「上二小のきまり」をもとにして、学習や生活で基本とするルールの徹底を図る。  
 ○「上二小授業スタンダード」として、1単元及び1単位時間の学習の流れや板書の仕方を共通にして、問題解決型・探究型の授業を基本スタイルとして実施する。  
 ○個に応じた指導の充実を図るために、算数少人数加配教員や学力向上専門員、学校生活支援員等を活用した、習熟度別指導など指導形態を工夫し、基礎・基本の定着・向上を図る。また、放課後学習を年間40回以上実施する。  
 ○校内研究の研究主題を、「見付ける！考える！表現する！上二っ子～児童の「探究心」を育む指導の工夫～」とし、各教科等において、探究的な学びをとおして、児童の学力向上を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダード(S)の徹底	読み解く力の育成	各教科における探究的な学び
「上二小授業スタンダード」として学習の進め方を、①課題・めあての提示、②予想・見通し、③自力解決、④グループ解決、⑤まとめ・振り返りとし、主体的、対話的で深い学びを全教科・全学級で進める。また、児童一人一人の実態や課題に応じて、学習内容の順番や方法をセルフセレクトさせる場面を設定させる。	○児童と共に1単位時間のめあて「OUTPUT」までを目標とした具体的な文言で設定し、授業革新を図る。 ○1週間の授業予定を計画する際に、週案に「読み解く力の6つの視点」を明記し、意図的・計画的に指導する。	「各教科における探究的な学び」を展開することによって、児童主体で問いを設定し、見通しをもって課題を追究する学び方を確立する。また、教科書や図書資料、インターネットの情報、実験結果等から、自分の考え方を見出し、考察する方法を具体的に指導する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアのめざす児童像「自律」や、重点項目「各教科における探究的な学び」を意識して、児童・生徒間の交流を計画し、実践する。 （高学年外国語における中学校乗り入れ授業、中学校生徒会による学校紹介等） ○「各教科における探究的な学び」について、情報交換や授業公開を行うことによって、学びのエリア内の児童・生徒の実態を把握するだけでなく、各教科等における指導に生かす。	○校内研究の中心教科として「探究の時間」（総合的な学習の時間）を設定し、①見付ける（課題設定）、②考える（情報の収集・整理・分析）、③表現する（まとめ・発表）の学習過程に沿って、各学年で各教科等との関連性を考慮して、実施する。 ○学校支援地域本部との連携を密にして、家庭・地域の教材を開発し、各教科等の年間指導計画に明記し、実践する。	○一人一台端末を使った授業の研修会を通して、教員がICT機器を活用した指導力向上に努める。 ○児童の学び方や学びの速度、順序等、児童一人一人に対して、それぞれの方法を児童自ら選択・決定させ、個別最適な学びを確保する。 ○ICT支援員を計画的に授業に配置し、教員や児童の授業における情報活用能力を高める。